

花き日記 第4回 盆栽（香川県）

日本一の松盆栽産地

香川県高松市では、約200年前に盆栽栽培が始まったといわれています。温暖で少雨、水はけのよい環境が松の成育に適していたこと、果樹の育成等で培われた接木や剪定の技術が活かされ、松盆栽の一大産地として成長し、「高松盆栽」としてブランドとなり、今では、評判は海を越えヨーロッパやアジア各国からもバイヤーが訪れます。

今回は、高松盆栽の産地の魅力をご紹介します。



「JA香川県高松盆栽の郷」での展示販売の様子

苗の生産地だからこそ刻まれた歴史と美しさ



出典：「JA香川県高松盆栽の郷」Webページ

香川県高松市の鬼無地区と国分寺地区は、松盆栽の国内最大の生産地です（松盆栽の全国シェアは約8割）。加えて特徴的なのは、苗の生産地でもあるということ。全国各地に盆栽産地はありますが、苗からの生産体制が残っているのは、香川県高松市だけといわれています。実際に訪れてみると、松が植わった畑が道の両側に広がる特有の景色に驚きます。

かつては山に自生する松の苗木を採取して盆栽に仕立てていましたが、歴史の流れや病害虫の影響で今では山からの採取はほとんど行われず、盆栽生産者の手によって苗木から生産されています。

盆栽の生産はまず、種を畑にまくことから始まります。その後、ポットに上げて針金を掛けて枝の動きを調整し育て、また畑に戻して枝を太らせて…苗木の生産に4年、鉢としての盆栽出荷までにはさらに数年、数十年の時間と手をかけていきます。代々受け継がれてやっと出荷、そんな生産者の時間が閉じ込められていることも魅力の一つかもしれません。

今や盆栽の愛好家は世界各地に広がり、現地で盆栽学校や独自の盆栽文化が生まれるほど。各国の植物検疫上の輸出のハードルも決して低くなく、輸出には輸送時のロス発生リスク等もありますが、世界の愛好家の需要に応えるかたちで、高松盆栽は世界各国へ輸出されています。

一方で、高松盆栽の生産者は、1970年頃の約300軒をピークに生産者数が減少、現在では約60軒ほどとなっています。

その中、後継者育成と盆栽技術の普及を目的に、2020年に高松盆栽技術研修「盆栽の匠」がスタートしました。初心者から盆栽に携わる若手職人まで、盆栽職人から直接技術を学ぶことができる研修施設となっています。職人に憧れて、国内外各地から訪れた研修生たちが、技術の研鑽に励んでいます。

また同年には、高松盆栽の情報発信の拠点として「JA香川県高松盆栽の郷」もオープン。観光客から愛好家まで幅広い人へ高松盆栽の魅力を伝えています。「JA香川県高松盆栽の郷」では、様々な盆栽園の盆栽が展示販売されているほか、各種ワークショップやイベントも開催されています。

ぜひ、魅力あふれる盆栽産地の香川県高松市に訪れてみてはいかがでしょうか。



出典：「盆栽の匠」Webページ

CHECK!

JA香川県高松盆栽の郷
Webページはこちら

盆栽の匠
Webページはこちら

